２０２６／２７年度 南極海鯨類資源調査
(JASS-A: Japanese Abundance and Stock-structure Surveys in the Antarctic)
の実施について

令和８年１１月２４日
指定鯨類科学調査法人
一般財団法人 日本鯨類研究所

1. 経緯

本調査は、日本国政府が従来実施してきた南極海における鯨類資源の持続的利用を目的とした資源調査（非致死的調査）を継続するもので、令和元年６月３０日の国際捕鯨委員会（IWC）脱退後、南極海における第８回目の調査航海となります。日本国政府が策定した本調査計画は、IWC/科学委員会においても、その科学的有用性が評価されています。

また、本調査により得られた鯨類の資源量等の科学的情報は、IWC/科学委員会の他、南極の海洋生物資源の保存に関する委員会(CCAMLR)/生態系モニタリング管理作業部会及び北大西洋海産哺乳動物委員会(NAMMCO)/科学委員会にも提供され、南極海における鯨類資源の適切な管理等に貢献しています。今年度の調査も引き続き、南極海において鯨類目視調査、衛星標識の装着およびバイオプシー試料の採集などを行います。

調査船である第三勇新丸及び第二勇新丸は、本年１２月３日に宮城県塩釜港を出港し、南極海で非致死的調査を行い、来年３月１２日に同港へ帰港予定です。

２．調査計画の概要

本調査は、水産庁補助事業により、当研究所が中心となって計画の立案と結果の分析を主導するとともに調査航海を実施します。

２．１ 主要調査目的：

(1) 南極海における大型鯨類の資源量及びそのトレンドの研究
(2) 南極海における大型鯨類の分布、回遊ならびに系群構造の研究

２．２ 航海期間：

２０２６年１２月３日－２０２７年３月１２日（１００日間）

２．３ 調査海域：

南極海

２．４　調査員：

第三勇新丸

磯田 辰也（調査団長：(一財）日本鯨類研究所　第一研究部門 次長）以下４名*

*チリの科学者１名が乗船

第二勇新丸

川﨑 南門（調査員：(一財）日本鯨類研究所　第一研究部門 研究員）以下３名

２．５　調査船：

第三勇新丸（７４２トン、共同船舶(株)所属、葛西 英則 船長 以下１６名）

第二勇新丸（７４７トン、共同船舶(株)所属、野島 茂 船長 以下１６名）

磯田団長、葛西船長、野島船長 以下　全３９名が乗船し、調査航海に従事します。

２．６　実施機関：

指定鯨類科学調査法人　（一財）日本鯨類研究所

以上